

・成果報告

1．地域COE構築に関する報告

本事業ではコア研究室を中核的研究施設としつつ、大学・企業・国公設試験研究機関においても研究を実施し、研究推進上での相互の緊密な連携を図ることにより、プロジェクト参加機関及び研究者間のネットワーク化を推進し、ネットワーク型地域COEを構築することを目標としてきた。

そのため、プロジェクト実施期間中を通してグループ会議や研究会を積極的に開催するとともに、地域COEとしてのポテンシャルを向上させるため、本事業の研究成果に関し、学会やシンポジウム等において広く情報の発信に努めた。それと同時に新規性・独自性を有する研究成果については積極的な特許出願を行い、地域COEの知的財産として、またフェーズにおける企業化に必要な要件としてその権利確保に努めた。

また、ネットワーク型地域COEの中心機関の一つとして、県工業技術センターの研究者が各グループの研究に参加するとともに、センター内にコア研究室を設置した。これらの取り組みにより、ネットワーク型地域COEの基礎を確立することができた。

さらに、事業終了後も継続的にネットワーク型地域COEを構築していくため、県と(財)福岡県産業・科学技術振興財団が緊密な連携を取りながら、本年度から産学官によるネットワーク会議及び研究会を開催し、研究成果の新たな展開等を推進していくとともに、コア研究室についても、引き続き、中核的な研究施設として設置・運営を行い、ネットワーク型地域COEの更なる発展を図っていく。

〔本事業の研究会活動による研究者ネットワークの発展事例〕

本事業で実施してきたデバイス実装研究会は、その特徴としてオープン参加の運営形態をとっている。そのため福岡県はもとより、九州地域だけでなく関東、関西地域の企業からも数多く参加するようになり、本県からデバイス実装に関する最新情報を発信することができている。

また、デバイス実装グループのリーダーが中心となり、デバイス実装研究会をベースにした、アジア地域の大学、企業との国際シンポジウムやジョイントセミナーを開催するに至っている。

さらに、本研究会での繋がりをきっかけとして、知的クラスター創成事業や国の制度を活用した研究開発事業において、共同研究の取り組みを始めた大学、企業も創出されている。